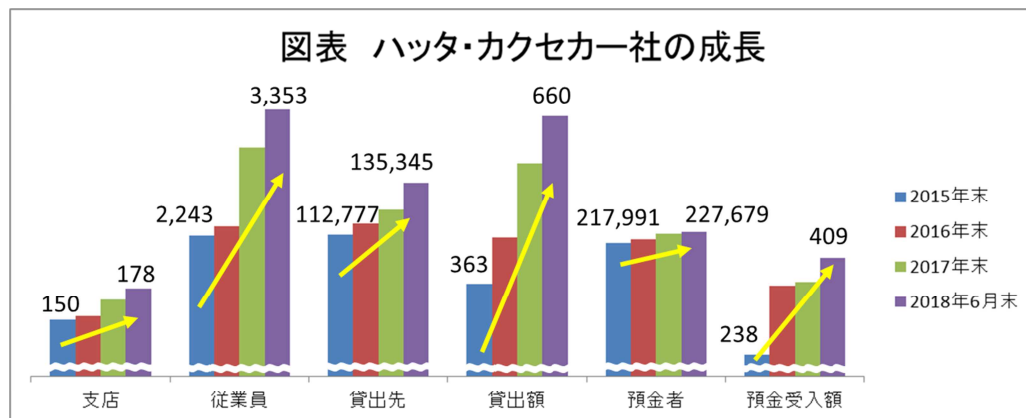


カンボジア初の国内社債発行へ

バンペン・ポスト等カンボジアの有力紙は27日、同国初のオンショア社債発行に向けてカンボジア国立銀行(NBC)の承認が得られたと報じた。発行企業はマイクロファイナンス(以下「MF」)大手ハッタ・カクセカー社で起債額は800億リエル(約20百万ドル)、需要が強ければ更に400億リエル相当の増額も検討する。年利7.5~8.5%の3年債で調達した資金は同社の融資事業、運転資金、一般管理費に投入される。主幹事証券は日系のSBIロイヤル証券(SBI

グループ傘下)で仮募集期間は9月26日~10月1日と設定された。

1994年創業のハッタ・カクセカー社(以下「同社」)は現在、三菱UFJフィナンシャル・グループ傘下のアユタヤ銀行(タイ)



金額は百万ドル。

2015年末~2017年末実績は同社アニュアルレポート、2018年6月末実績は同社ウェブサイトを参照。

の100%子会社で同国第3位のMF預金取扱機関であり、近時の成長は目覚ましい(図表参照)。同社債については、タイの格付会社タイ格付情報サービス(TRIS)がBBB+の格付を付与している。マーケットでの地位は強固でリスク管理態勢も整備されている反面、新規のMF融資金利に18%の上限を課すNBCの規制が、当面MF業者の収益性の足かせになるとの評価だ。

今回の起債は、カンボジアの債券市場を育成する目的で、途上国の民間セクター支援を行う世銀グループの機関である国際金融公社(IFC)の支援の下で実現した。IFCは既に今年の5月、同社発行のリエル建て社債20百万ドルに投資する意向を公表していた。女性や農村部にも積極的に融資や貯蓄等の包括的な金融サービスを全国的に提供している同社債券への投資は、金融包摂の進展にも貢献すると目される。

主幹事証券会社のSBIロイヤル証券は、SBIホールディングスのウェブサイト記載によれば、SBIホールディングス及び国際会計基準で子会社となる会社・ファンドが65.29%の議決権を所有し、証券事業のフルライセンスを取得した日系で唯一の総合証券会社である。国有企業シハヌーク港灣公社のカンボジア証券取引所(CSX)上場主幹事も務める等、同国で一定の実績を挙げている。

昨年8月に社債発行及びCSXへの上場に関する制度が整備されたカンボジアでは、今年5月には香港株式市場に上場しているカジノ運営会社ナガコープがオフショア市場で初の社債を発行している。資本市場当局のカンボジア証券取引委員会(SECC)関係者は国内企業の起債ニーズは底堅いと意気込むが、今回の起債のSECC手続きはまだ済んでおらず上場申請フォームも確定していないようである。同国資本市場をめぐるルール作りの進展は今後も注目の的だ。